

図書・雑誌及び図書館利用調査 (報告)

2010年7月22日

東京大学附属図書館研究開発室

図書・雑誌及び図書館利用調査(報告)の概要

平成 22 年 7 月 22 日

附属図書館研究開発室

調査要領

アンケート調査期間：2009 年 12 月 4 日～12 月 25 日

対象者：本学の教員および大学院生

調査方法：Excel ファイルの回答票にデータ入力し、電子メールで回答

回答数：503

1. 学術雑誌の利用

- ・「頻繁に利用する雑誌」のタイトル数は和雑誌 1.1 に対して洋雑誌 6.3
- ・各タイトルの年間利用回数の平均は和雑誌 21.9 に対して洋雑誌 210.2
- ・和雑誌は私費で購入したものの利用が多く、洋雑誌は大学で購入したものが多く
- ・利用の大半は和雑誌では印刷版、洋雑誌では電子版である

2. 図書の利用

- ・分野別には人文学、社会科学では利用冊数が多く、化学、数物科学、生物系などで少ない
- ・職位が上がるほど図書の利用冊数が増える傾向がみられる
- ・総合領域、人文学、社会科学では自宅蔵書の利用が多く、それ以外は図書館・研究室の蔵書を利用する傾向

3. 図書館・室の利用

- ・平均月間図書館利用回数は 8.7 回、利用時間は 13.3 時間
- ・部局別では人文社会系研究科、総合文化研究科、教育学研究科、数理科学研究科所属者の図書館利用が多い
- ・図書館の利用回数は研究分野よりも所属部局の位置や図書館・室設置状況が影響

4. 資料の取り寄せ

- ・資料のコピー(学内、学外)、資料の借出(学内)は 7～8 割がサービスを認知。e-DDS、資料の借出(学外)は半数程度がサービスを認知している。
- ・e-DDS は医学、化学、生物学分野で多用される。人文学では資料の借出サービスがコピーよりも多く使われる。
- ・駒場 I, 柏, 白金の各キャンパス所属者は資料の借出(学内)を多く利用している。

2010年7月22日
東京大学附属図書館研究開発室

図書・雑誌及び図書館利用調査（報告）

昨年度実施した図書・雑誌及び図書館の利用についてのアンケート調査について報告する。

調査の概要

アンケート依頼日：2009年12月 4日

回答期日：2009年12月25日

回答方法：Excel ファイルの回答票にデータ入力し、アンケート担当アドレス宛に
メール添付にて直送

調査対象者：

本学教員の皆様（教授、准教授、講師、助教、助手、特任教授、特任准教授、特任講師、特任助教、特任研究員、外国人研究員）、本学大学院生

調査の報知：

アンケート用紙は各部局図書館室から配布するほか、各部局の文書回覧やメーリングリスト、東大ポータル等も利用して報知した。

また、大学院各研究科の教員には、大学院生を2名から5名まで選び、同じ調査用紙にて回答するよう依頼した。

集計／分析：

有効回答数は503通であった。回答者の一覧については、表 0-1 を参照されたい。簡単な集計については、3月12日の図書行政商議会で報告した。以下の分析は、雑誌、図書、図書館、資料取り寄せサービスについて、利用の状況を示した。

注意：

回答者一覧にみられるように、部局によって回答数に大きな偏差があることから、これはあくまでも学内の利用状況について理解するための参考資料という性格のものであることに留意されたい。

	1 教授	2 准教授	3 講師	4 助教	5 特任教員	6 博士課程 院生	7 修士課程 院生	8 その他	9 不明	総計
01 法学政治学研究科・法学部	2									2
02 医学系研究科・医学部	5	2	8	5	3	19	12	3		57
03 工学系研究科・工学部	2	1		2	1	5	1			12
04 人文社会系研究科・文学部	7	4		4		15	9			39
05 理学系研究科・理学部	2	4	1	2		4	6			19
06 農学生命科学研究科・農学部	2	6	2	5	4	8	12	3	1	43
07 経済学研究科・経済学部	2					3	1			6
08 総合文化研究科・教養学部	3	5		1	1	5	6	1		22
09 教育学研究科・教育学部	14	6	2	1	2	29	21	1		76
10 薬学系研究科・薬学部	2	2	1	13	5	15	11	1	2	52
11 数理科学研究科	2	1			3					6
12 新領域創成科学研究科	3	3			1	7	8	1		23
13 情報学環・学際情報学府	1									1
14 情報理工学系研究科				1		2	3	1	1	8
16 医科学研究所		1	1	4	1	1				8
17 地震研究所		1		1			1			3
19 社会科学研究所	1			1						2
20 生産技術研究所	2	1								3
21 史料編纂所				1						1
24 物性研究所	9	9	1	10	2	19	14	2	1	67
25 海洋研究所	2	7	1	6	2	4	4	1		27
26 先端科学技術研究センター	1			1						2
27 アジア生物資源環境研究センター	1	1					1			3
27 生物生産工学研究センター	1									1
27 総合研究博物館					1					1
28IRT 研究機構					1					1
29 不明・その他	1								17	18
総計	65	54	17	58	27	136	110	14	22	503

表 0-1 回答者数の一覧

第1章 学術雑誌の利用について

この質問は、日頃よく利用する学術雑誌について聞いている。ここでいう雑誌には、外国・国内刊行を問わず、電子版の雑誌（電子ジャーナル）と印刷版の雑誌の両方を含むものとしている。質問項目は6つあり、Q01：利用誌で、最大10誌のタイトルをあげさせ、それぞれのタイトルについてQ02：購入経費、Q03 年間利用回数、Q04 電子版/印刷版、Q05 配置場所、Q06 読み方の別に尋ねている。本節では、利用者を単位にした結果を述べる。この際、注目する属性は、利用者については分野と職位、雑誌については雑誌の出版国（洋雑誌か和雑誌か）である。

1-1 Q01 利用誌

この質問は、頻繁に掲載論文を利用する雑誌のタイトルを最大10誌まであげさせている。外国雑誌の誌名は、添付の“雑誌リスト.xls”から選択して、4桁の連番を含めてコピー&ペーストさせている。国内雑誌及びリストに無い外国雑誌については、直接タイトルを入力させている。

利用タイトル数は洋雑誌が和雑誌の6倍近くになっている（表1-1）。

	平均	標準偏差	最大値	最小値
和雑誌	1.12	2.25	10	0
洋雑誌	6.26	3.61	10	0

表1-1. 平均利用タイトル数の基礎統計量

利用タイトル数の分布をみると、和雑誌は1タイトルもあげない者が多く、洋雑誌を10タイトルあげる者が多い（表1-2）。

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
和雑誌	356	36	22	19	20	19	3	12	4	4	8
洋雑誌	50	19	32	42	34	34	32	26	25	30	179

表1-2. 利用タイトル数の分布

一人当たりの平均利用タイトル数は、分野別で見ると、社会科学と人文学でやや少ないが全体的にあまり差がない一方、和雑誌洋雑誌の別は、一般的に洋雑誌が圧倒的に多いが、和雑誌の利用が社会科学人文学では多い。職位別にみると、修士課程の学生の洋雑誌の利用タイトル数が少ない（図1-1）。

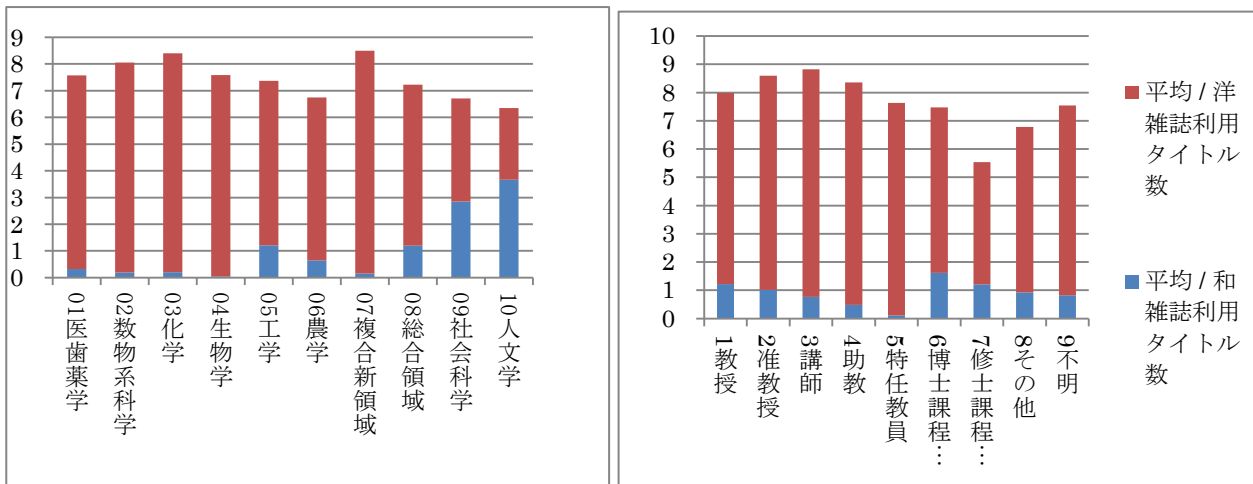


図 1-1 平均利用タイトル数の和洋の分布 (分野、職位別)

1-2 Q 03 年間利用回数

この質問では、(Q 01)の雑誌を一年間で何回程度利用するか、回数を聞いている。タイトル数同様、洋雑誌の利用数が圧倒的に多い (表 1-3)。

	平均	標準偏差	最大値	最小値
和雑誌	21.87	55.22.	572	0
洋雑誌	210.19	276.85	2654	0

表 1-3 年間平均利用回数の基礎統計量

年間利用回数の分布をみると、和雑誌を全く利用していない者の割合がタイトル数同様に高い (図 1-2)。

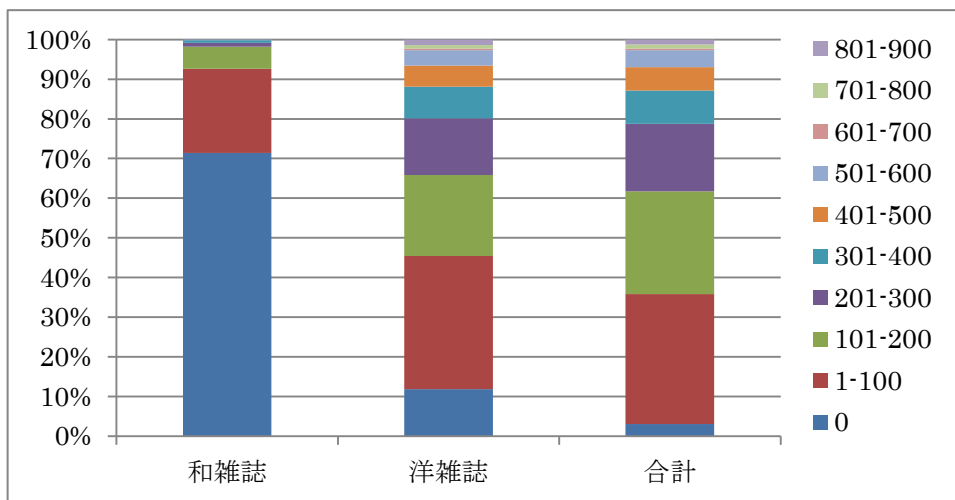


図 1-2 年間利用回数の分布

一人当たりの平均利用回数は、タイトル数と近い側面が多い。分野別でみると、社会科学と人文学でやや少ないが全体的にあまり差がない一方、和雑誌洋雑誌の別は、一般的に洋雑誌が圧倒的に多いが、和雑誌の利用が社会科学人文学では多い。今後の分析においてはこの二つの分野以外の和雑誌の利用の分析結果は少数の利用者の動向に左右されている可能性が高い

ため、結果の解釈は慎重に行う必要がある。また、職位別にみると、修士課程の学生の洋雑誌の利用回数が少ない（図 1-3）。

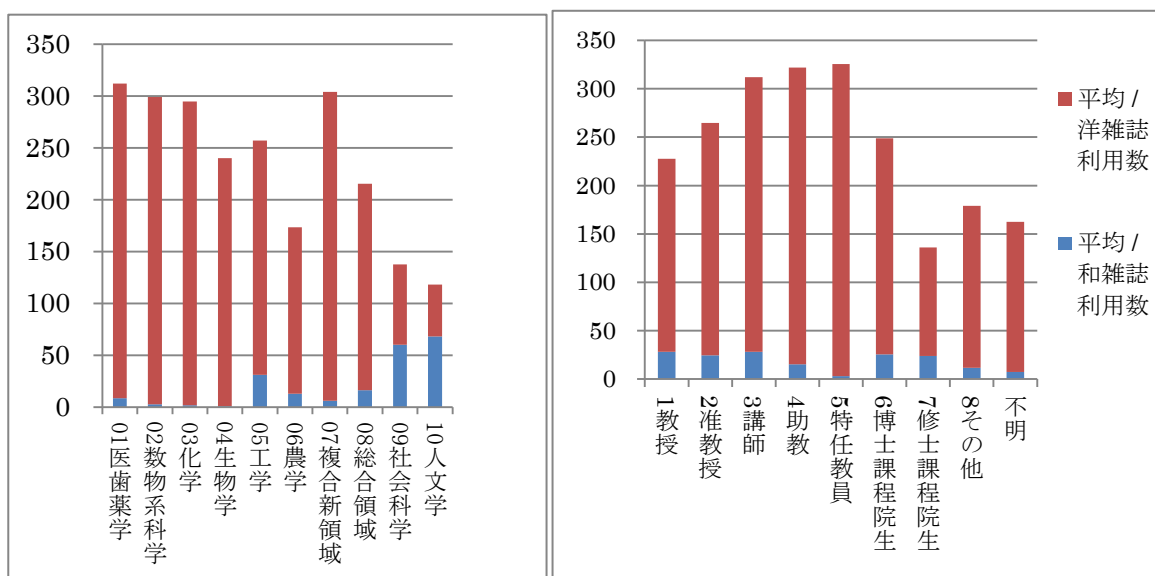


図 1-3 平均利用回数の和洋の分布（分野、職位別）

一タイトル当たりの平均利用回数を見てみると、最大値には大きな差があるが、最頻値が 11-20 となっていることは和雑誌と洋雑誌は近いことがわかる（図 1-4）。

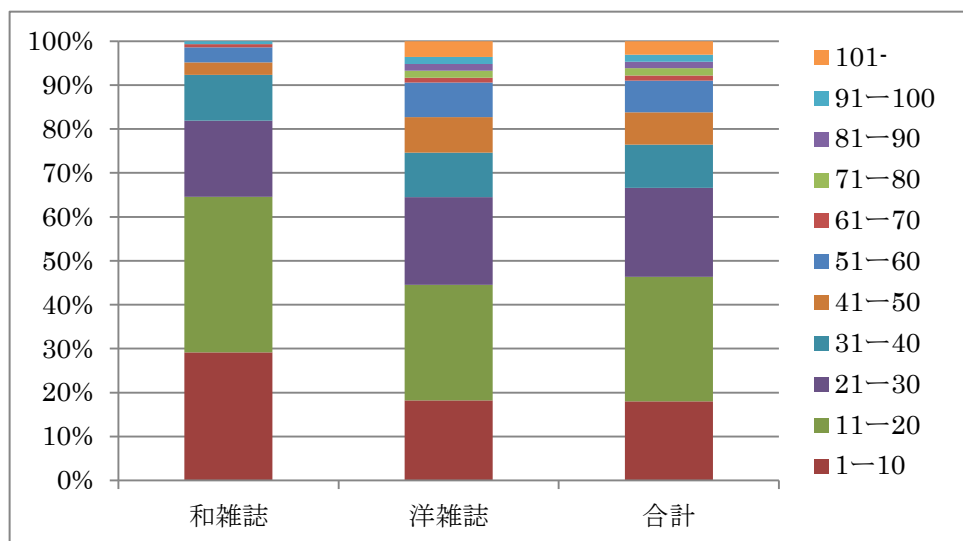


図 1-4 一タイトル当たりの平均利用回数

1-3 Q 02 購入経費

この質問では、(Q 01)の雑誌の購入経費を分かる範囲で、大学の経費、科研費等の外部資金、私費、その他（「分からない」を含む）から選択させた。ただし、学生の回答は除いた。和雑誌の分野ごとの比較を行うと、数物系科学、化学、工学、複合新領域では大学の経費の割合が高いが、それ以外では私費の割合が高い。和雑誌の分野ごとの比較を行うと、特任教員とその他では大学の経費の割合が高いが、それ以外では私費の割合が高い（図 1-5）。

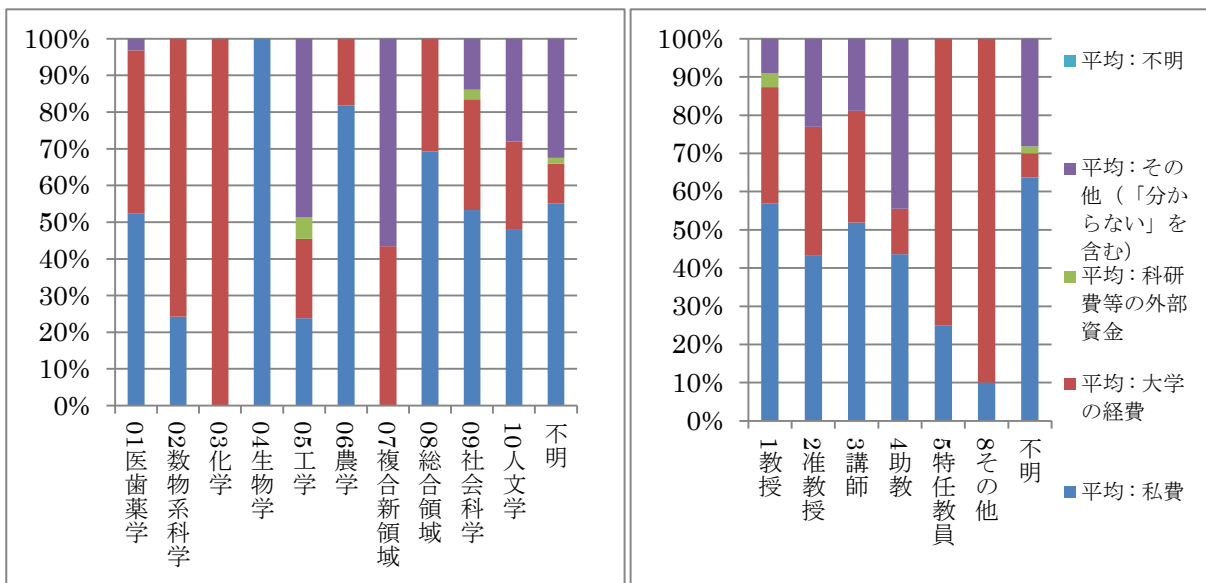


図 1-5 和雑誌の一人当たりの購入経費ごとの平均利用回数の割合（分野、職位）

洋雑誌の分野、職位ごとの比較を行うと、ほぼ大学の経費で購入されている（図 1-6）。

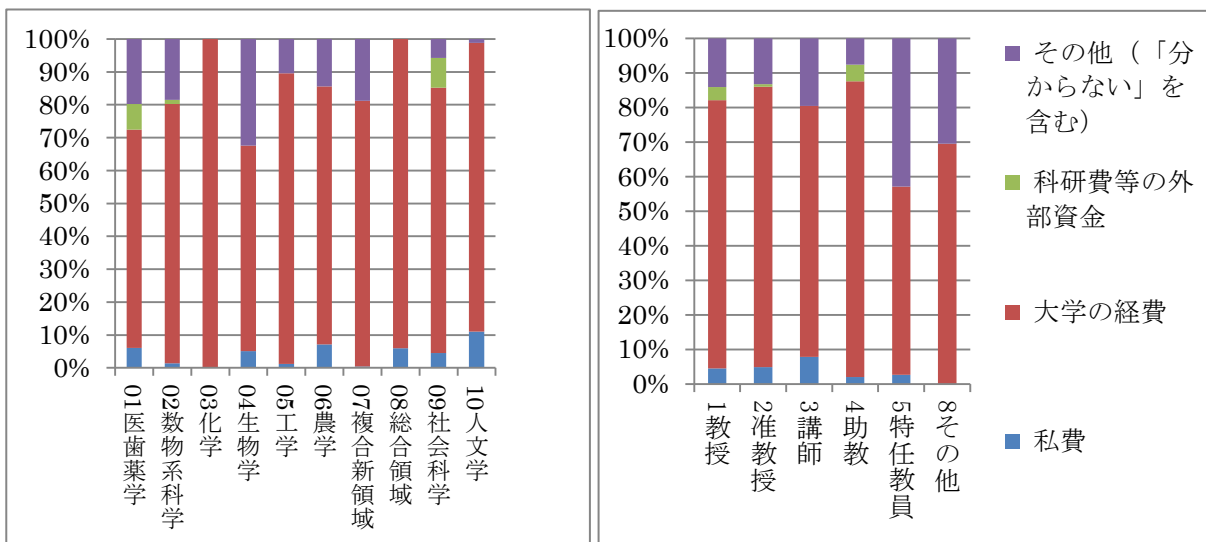


図 1-6 洋雑誌の一人当たりの購入経費ごとの平均利用回数（分野、職位）

1-4 Q 04 電子版/印刷版

この質問では、(Q 01)の雑誌が、電子版の雑誌か、印刷版の雑誌かを選択させた。両方ある場合は、主に利用するほうを記入させた。和雑誌の分野ごとの比較を行うと、複合新領域ではある程度電子版の利用もあるが、他はほぼ印刷版を利用している。和雑誌の職位ごとの比較を行うと、院生ではある程度電子版の利用もあるが、他はほぼ印刷版を利用している（図 1-7）。

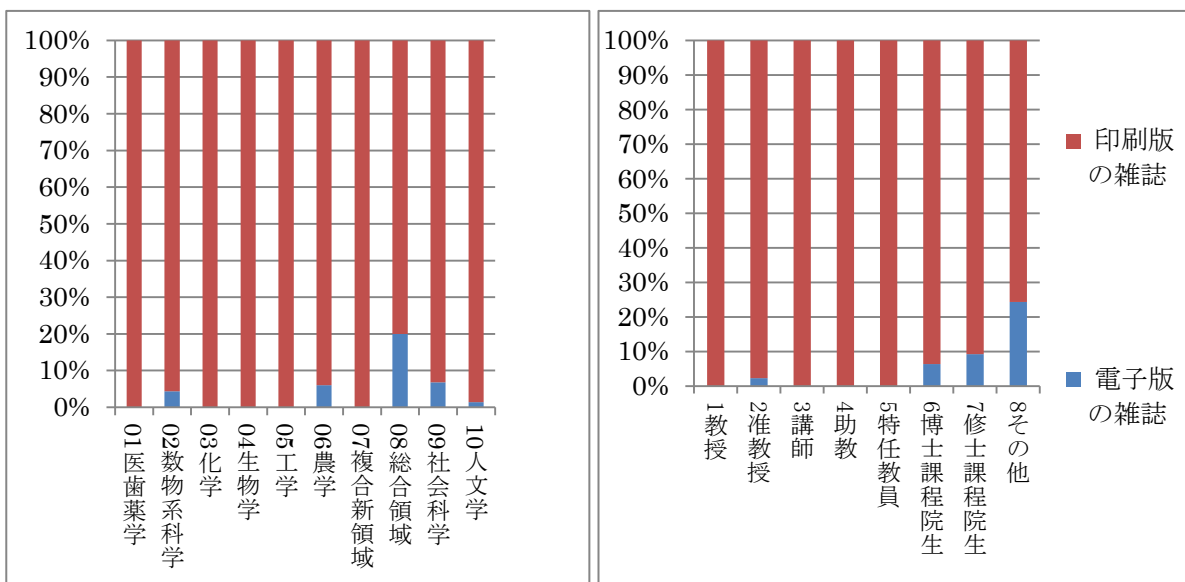


図 1-7 和雑誌の一人当たりの電子版、印刷版の平均利用回数の割合 (分野、職位)

洋雑誌の分野ごとの比較を行うと、社会科学、人文学では印刷版の利用が一定程度あるが、他はほぼ電子版を利用している。和雑誌の職位ごとの比較を行うと、教授はある程度印刷の利用もあるが、他はほぼ電子版を利用している (図 1-8)。

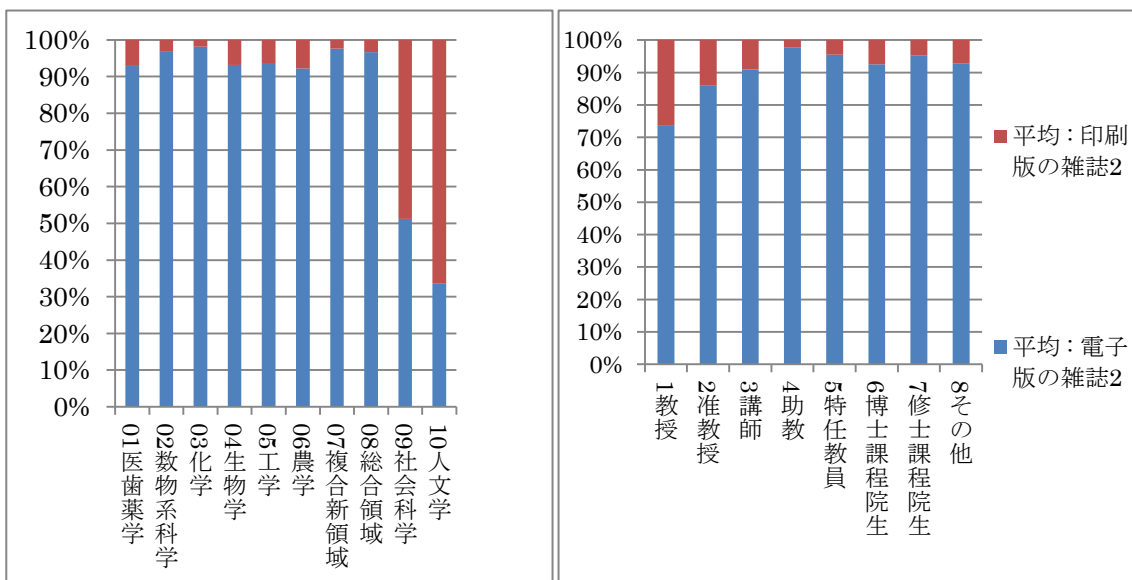


図 1-8 洋雑誌の一人当たりの電子版、印刷版の平均利用回数の割合 (分野、職位)

1-5 Q 05 配置場所

この質問では、(Q 04)の「印刷版の雑誌」は、どこに置いてあるのか、配置場所を選択させた。選択肢は、総合・駒場・柏図書館、学部・学科の図書館室、研究室、自宅、その他 (学外の各種図書館を含む)、であった。和雑誌の分野ごとの比較を行うと、生物学と複合新領域ではある程度自宅に配置しているものを利用している。医師薬学、数物系科学、生物学、工学、

農学は研究室に配置してあるものを利用する機会が多い。それ以外は学部、学科の図書館室に配置してあるものの利用が多い。総合・駒場・柏図書館に配置されているものの利用は人文学で一定程度行われている。数物系科学、工学、複合新領域では一定の他の場所に配置されているものの利用がある。和雑誌の職位ごとの比較を行うと、教授と院生はある程度自宅に配置されている雑誌の利用がある、教員は研究室に配置されているものの利用が多い。ただし、助教は学生とともに学部学科の図書館室に配置されている雑誌を多く利用している。総合・駒場・柏図書館に配置されているものの利用は学生、特に修士課程の学生が一定程度行っている。(図 1-9)。

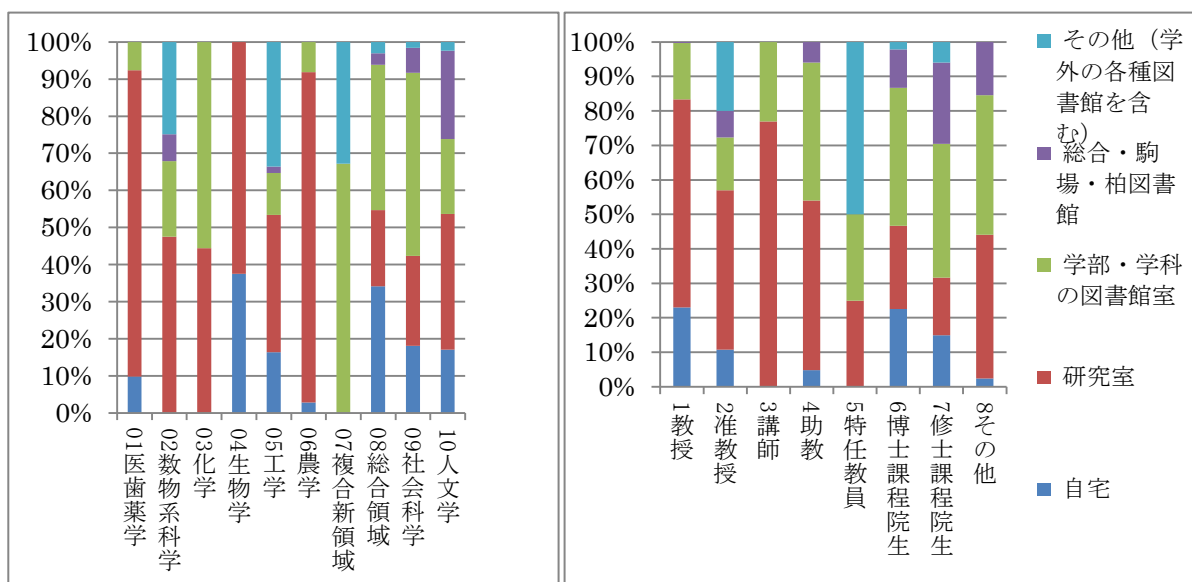


図 1-9 和雑誌の一人当たりの各配置場所の平均利用回数の割合 (分野、職位)

洋雑誌の分野ごとの比較を行うと、自宅に配置しているものの利用はほぼない。医師薬学、数物系科学、生物学、工学、農学、人文学は研究室に配置してあるものを利用する機会が多い。それ以外は学部、学科の図書館室に配置してあるものの利用が多い。総合・駒場・柏図書館に配置されているものの利用は生物学、複合新領域で一定程度行われている。農学、複合新領域では一定の他の場所に配置されているものの利用がある。職位ごとの比較を行うと、准教授と特任教員、講師は研究室に配置されている雑誌の利用が多い。他の教官は学部学科の図書館室に配置されている雑誌と同程度利用している。学生は学部学科の図書館室に配置されている雑誌を多く利用している。総合・駒場・柏図書館に配置されているものの利用は学生、特に博士課程の学生で一定程度行われている。学生はまたその他の場所に配置されている雑誌も一定程度利用している (図 1-10)。

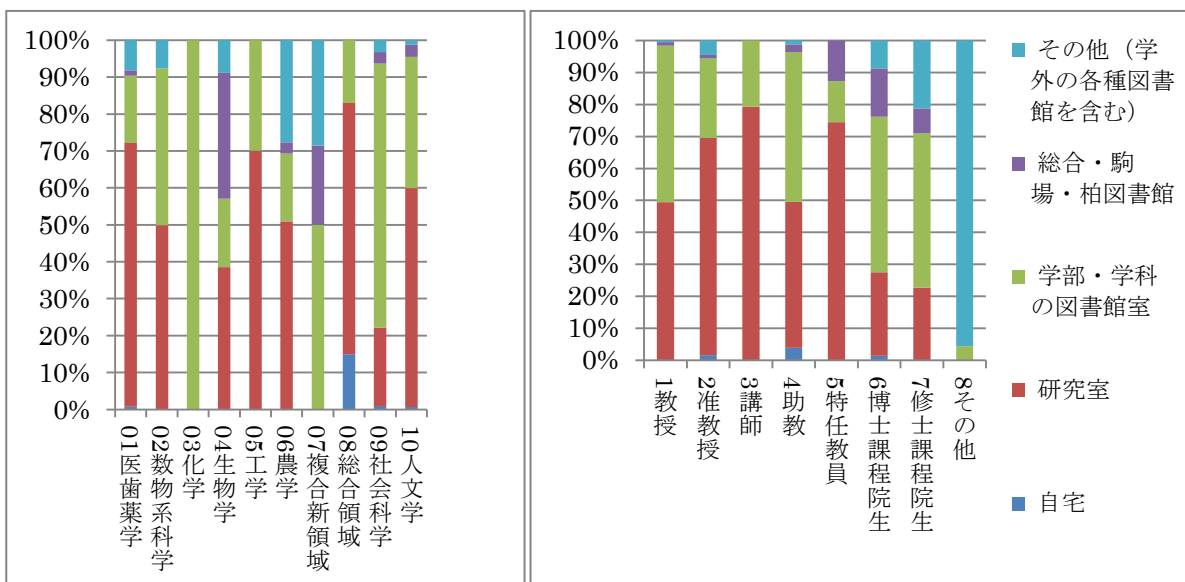


図 1-10 洋雑誌の一人当たりの各配置場所の平均利用回数の割合 (分野、職位)

1-6 Q 06 読み方

この質問では、(Q 01)の雑誌をどのように読むのか、主なものを聞いた。選択肢は、電子版の雑誌を画面で、電子版の雑誌を印刷して、印刷版の雑誌から必要部分をコピーして、印刷版の雑誌の現物を手にとって、その他、であった、和雑誌の分野別の比較を行うと、印刷版については、複合新領域、総合領域、社会科学、人文学はコピーを多く行い、それ以外の分野では手にとって利用している。電子版については、印刷して利用する割合が高い。職位別の比較を行うと、印刷版については教授、助教授は手にとって利用することが多く、特任教員はコピーする割合が高いが、それ以外の職位では手にとって利用する割合もコピーする割合も同じ程度に高い。電子版については、印刷して利用する割合が高い (図 1-11)。

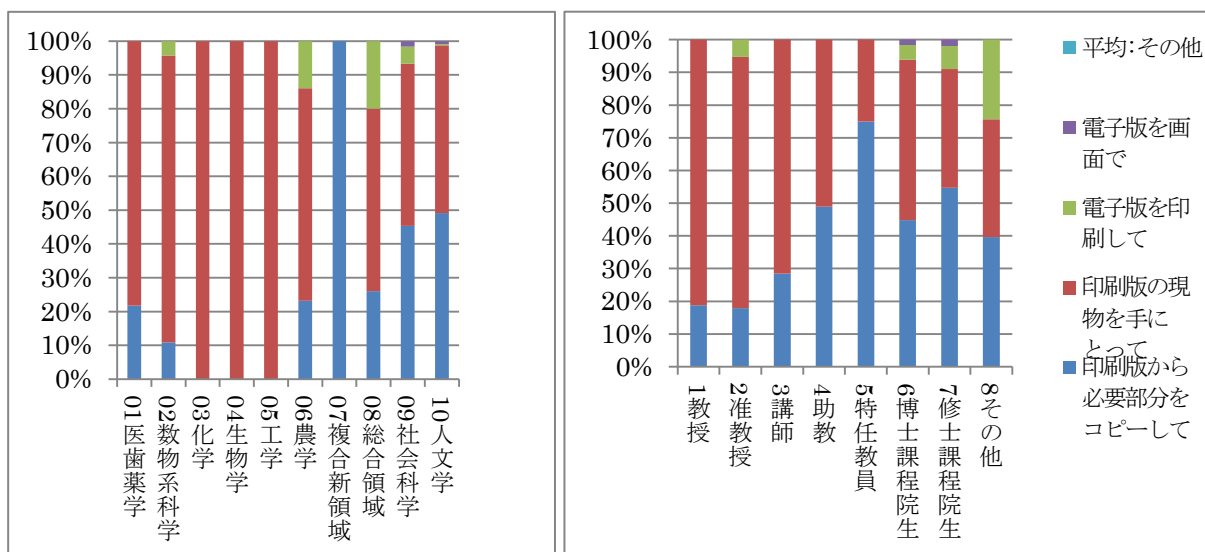


図 1-11 和雑誌の一人当たりの各読み方の平均利用回数の割合 (分野、職位)

洋雑誌の分野別の比較を行うと、印刷版では医師薬学、工学を除いてコピーする割合が高

い。電子版については、社会科学は画面で利用する割合がある程度高いが、他は印刷する割合が高い。職位別の比較を行うと、印刷版については、学生はコピーする割合が高いが、教官は手に取って読む割合が高い。電子版については、印刷する割合が全体的に高い(図 1-12)。

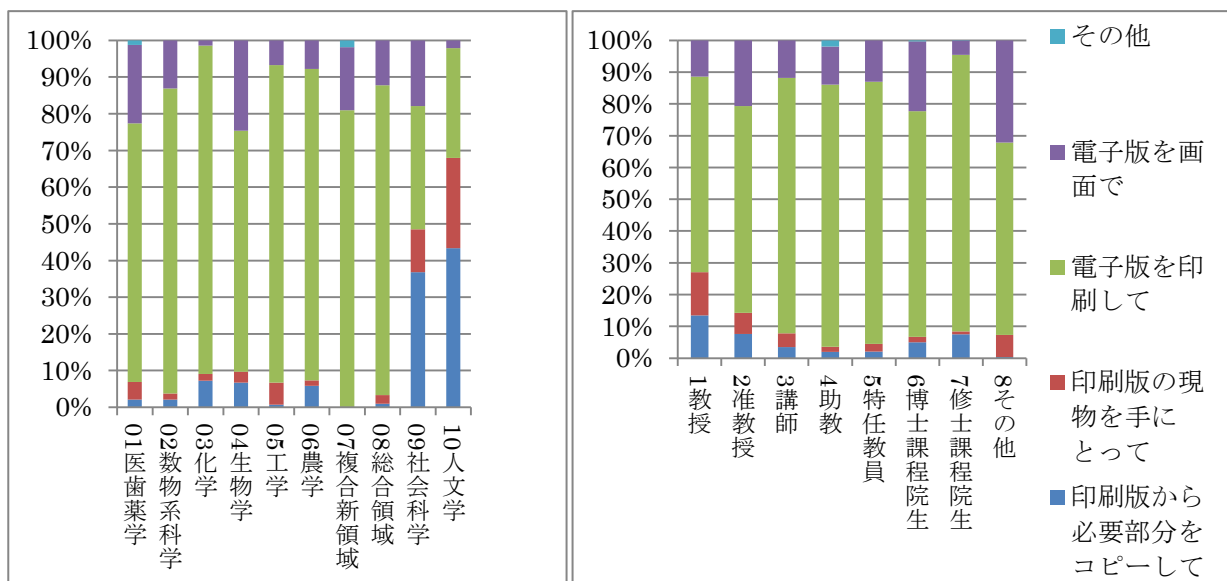


図 1-12 洋雑誌の一人当たりの各読み方の平均利用回数の割合 (分野、職位)

1-7 「頻繁に利用する雑誌」として多くの人が挙げた雑誌

20 以上の回答者から「頻繁に利用する雑誌」として挙げられたタイトルは以下のとおりである(複数回答可)。

雑誌名	回答数
Nature (London)	151
Science (New York, N.Y.)	123
Physical review letters	77
Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America	63
Physical review. B, Condensed matter and materials physics	55
Cell (Cambridge)	50
Journal of the Physical Society of Japan	40
Journal of the American Chemical Society	35
Journal of biological chemistry	33
Nature neuroscience	25
Journal of neuroscience	23
Angewandte Chemie. International edition in English	23
Nature cell biology	23
Nature physics	21
Applied physics letters	21
Geophysical research letters	20

表 1-4 「頻繁に利用する雑誌」 回答 20 以上(複数回答可)

1-8 主要タイトルの利用傾向

次のグラフは多くの人が頻繁に利用する代表的なタイトル 10 誌について、年間利用回数の回答を読み方別に積み上げたものである。グラフからは頻繁に使うと答えた人の利用は大半が電子版の利用であることが読み取れる。「電子版を画面で」利用する回数はタイトルによって異なるが、「Nature」と「Science」でその比率が高いのは、特定の論文や記事を求めて読むのではなく、総合科学誌としてブラウジングするからであろう。他の専門誌では圧倒的に少ない紙の利用が「Nature」と「Science」では一定程度あるのも同じ理由からだと考えられる。

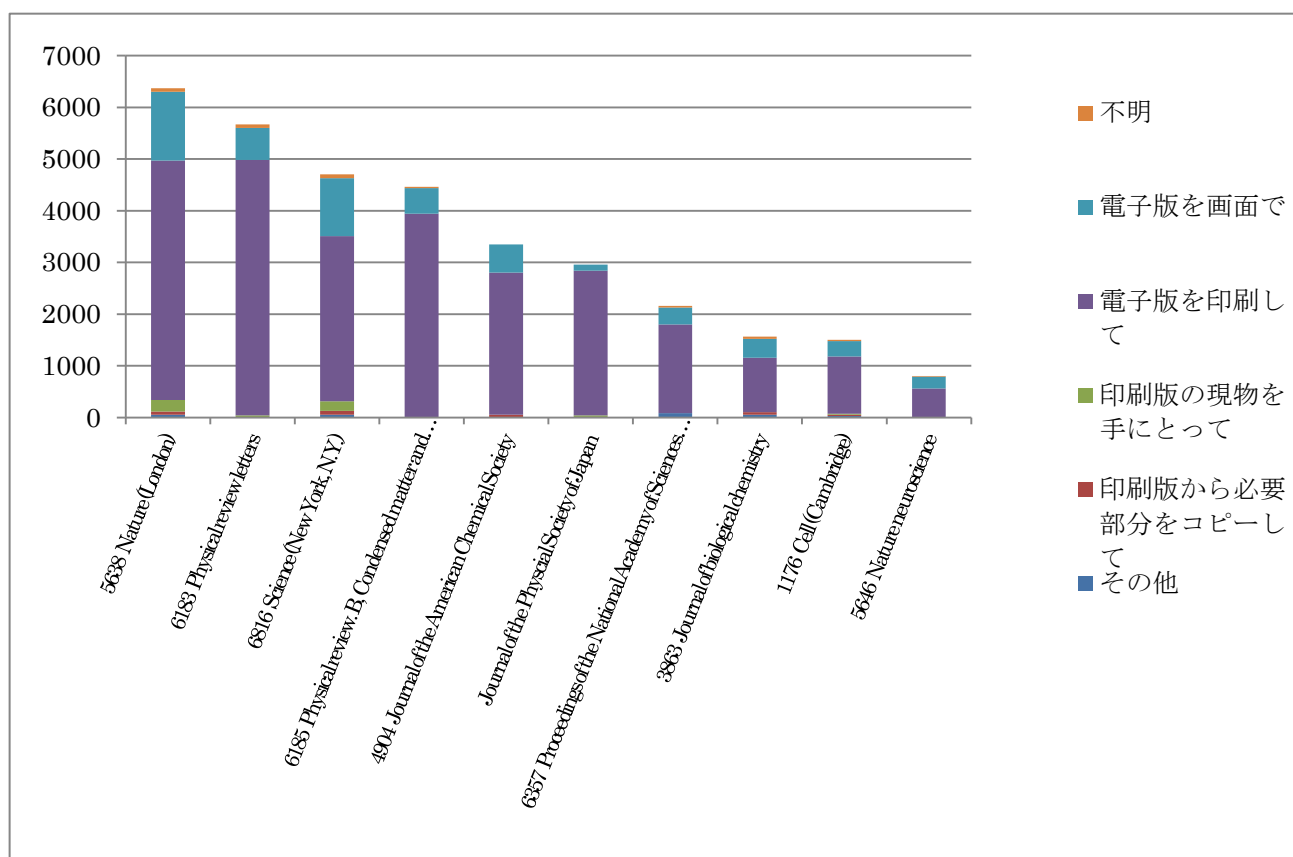


図 1-13 「頻繁に利用する雑誌」上位 10 誌の累積年間利用回数(読み方別)

2章 図書利用の分析

Q7は、研究者の図書利用について尋ねるもので、6つの配置場所（「図書館室」「研究室」「自宅」「他大学等」「国立国会図書館・公立図書館」「その他」）から、実際に手にとって利用する図書が、年間に約何冊かを記入してもらった。

2-1 基本統計量

表2-1に見られるように、記入があった479人の図書合計利用冊数の平均は149冊であったが、標準偏差は365冊ときわめて大きく、最小値が1で最大値が5000冊を超えているようになり大きな違いがあった。

	該当数	平均	標準偏差	最大値	最小値
図書館室	418	37.3	71.0	1000	1
研究室	437	60.7	120.0	1460	1
自宅	365	58.3	277.4	5000	1
他大学等	153	16.6	35.1	250	1
国立国会図書館・公立図書館	111	25.1	39.6	240	1
その他	30	21.5	25.1	100	1
計	472	149.3	365.1	5950	1

表2-1 図書利用の基本統計量

この質問は、「年間の図書の利用」というおおざっぱな聞き方をしているので、答えにくかったものと思われる。通常、年間の利用冊数などをカウントしていることはないからであるし、また、「利用」をどのように考えるかも人によってあるいは分野によって違うものと考えられる。たとえば、合計利用冊数の最大値を答えたのは人文学の研究者であるが、自宅での年間利用冊数を5000冊と答えている。自宅に5000冊程度の蔵書があり、蔵書全体が常時利用の対象という意味なのかもしれない。

2-2 分野・職位別の利用冊数分布

図2-1と図2-2はこれの分布を分野別と職位別にみたものである。人文学と社会科学が理系の分野よりも明らかに図書の利用冊数が多い。理系では、化学、数物系、生物系、医歯薬学が少なく、農学、工学がやや多い。複合新領域や総合領域も同じ水準になっている。職位別では職位が上がるほど利用冊数が増える傾向がある。

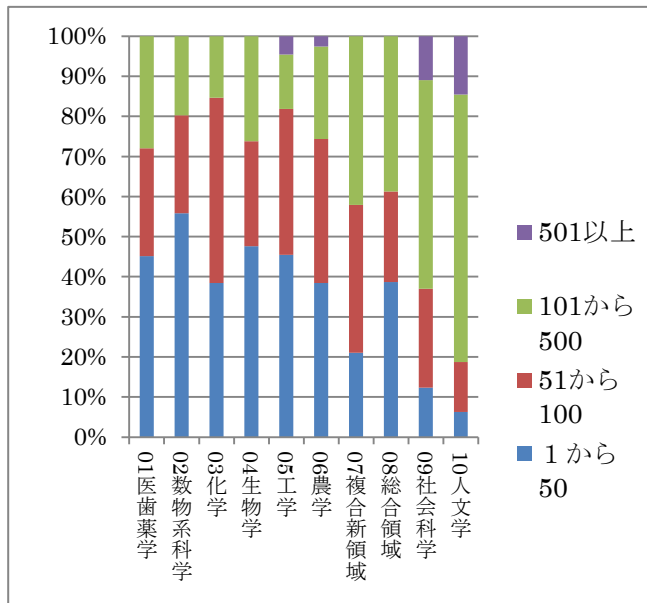


図 2-1 分野別の年間平均図書利用冊数の分布

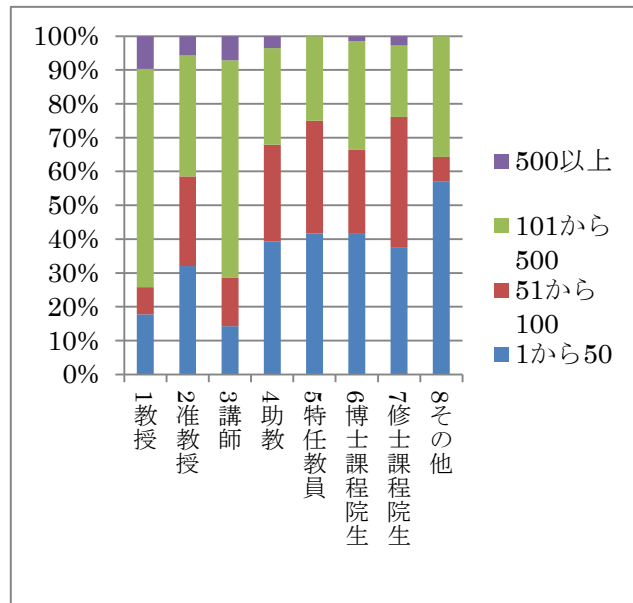


図 2-2 職位別の平均年間図書利用冊数の分布

表 2-2 は、分野と職位をクロス集計して平均冊数を示したものである。ここから全体の傾向を見ると、全体の平均冊数は 140 冊で、職位があがるにつれて利用冊数が増えていく傾向はあるが、分野によっては必ずしも教授が一番多いというわけでもない。(この表ではセルに 5 以上の該当数があったところだけ数値を挙げています。ただし計の平均値は 0 も含めてすべてのセルで計算しているので、全体の平均も基本統計量と違っている。) ただ、少ないところでも年間 50 冊程度の図書の利用はあることが分かる。

職位／分野	医歯薬学	数物系科学	化学	生物学	工学	農学	複合新領域	総合領域	社会科学	人文学	計
1 教授	81	103			53	149		144	395	1267	345
2 准教授		73		98		149			480	377	179
3 講師	124										122
4 助教	114	75	64	43			135			754	139
5 特任教員	72	88		84				55			73
6 博士課程院生	64	55		88		49		121	181	159	103
7 修士課程院生	59	48		45	64	74		108	148	231	96
8 その他											93
計	80	66	49	78	104	101	103	107	236	467	140

表 2-2 職位と分野別の年間図書利用冊数（セルで 5 以上の回答があったところ）

2-3 利用図書の配置場所

次に図 2-3 として利用図書の配置場所の分布を分野別に示す。その際に、「他大学等」「国立国会図書館・公立図書館」「その他」のカテゴリーは合わせて「その他」としている。総合領域、人文学、社会科学で自宅蔵書が多いが、それ以外の分野では、70%から 80%は図書館ないし研究室の蔵書を利用していることが分かる。研究室と図書館の関係では、社会科学、人文学が図書館を、それ以外が研究室の図書を使う傾向が強いことが示されている。理系分野では、数物系、化学、工学において比較的図書館の割合が高くなっている。

職位別の図書利用について示したのが図 2-4 である。職位が上がるにつれて図書館の利用が下がる傾向にある。また、教員は研究室の利用が多く、大学院生は図書館、研究室、自宅にそれぞれ一定程度依存している様子が見える。

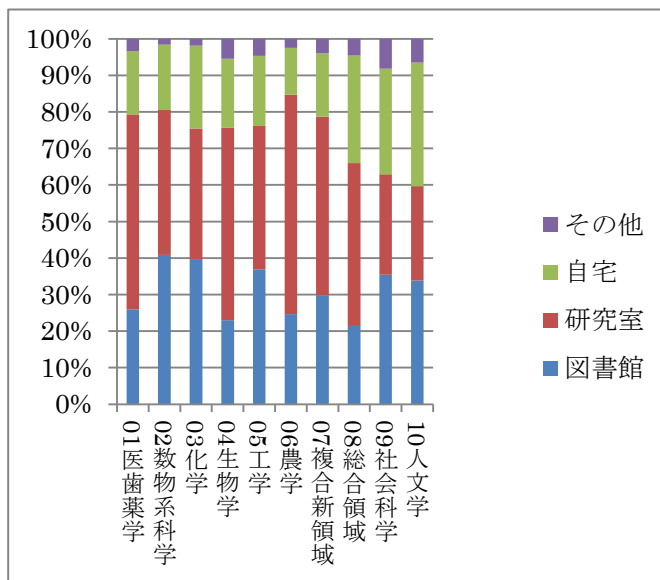


図 2-3 分野別の利用図書の設置場所

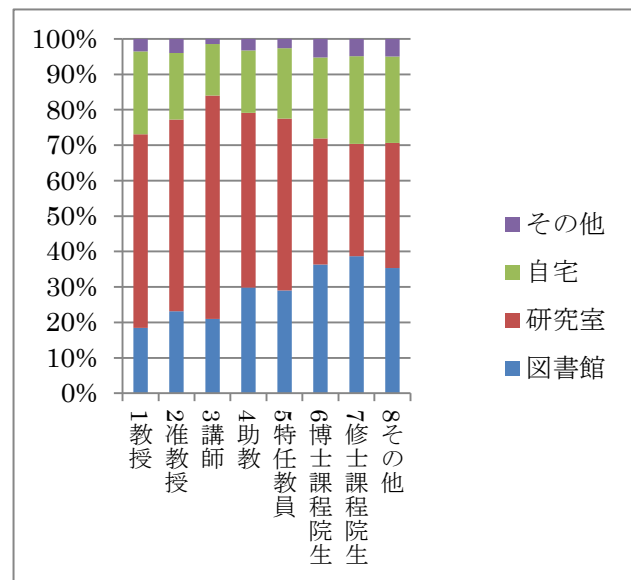


図 2-4 職位別の利用図書の設置場所

なおこの調査で研究室とは、それぞれの回答者が自らのイメージで選択しているものであるが、一般的に大学において個々の研究者のもっとも身近にある研究室、講座、実験室、医局のようなものを指すと考えられ、通常は図書館や部局図書室とは区別される。研究室には私的に購入した図書と公的な研究資金で購入した図書の両者、場合によっては図書館・室の蔵書とされるものが混在している可能性がある。職位が上がると図書館の利用率が下がるのは、研究資金が豊富で研究室に図書をもちやすいことが関係しているのかもしれない。

3章 図書館・室の利用

Q8 から Q14 は、図書館ないし図書室の利用状況について尋ねたものである。学内で頻繁に訪問利用する図書館室の名称を、優先順に3館まで記入してもらい、さらにそれぞれの図書館ごとに利用目的を3つまで選択肢、一ヶ月の訪問回数、よく訪問する曜日、よく訪問する時間帯、滞在時間、そして、最後に当該図書館室の閲覧座席が十分にあるかどうかの意見を尋ねている。

3-1 基本統計量

表 3.1 に基本統計量を挙げた。ここでは1館以上を挙げている回答者の利用図書館数、一ヶ月の訪問回数、一ヶ月の総利用時間数（理論値：図書館数×訪問回数×利用時間）をカウントした。回答者が挙げた一月の平均利用図書館数は 2.3、平均訪問回数は 8.7 回、平均利用総時間は 13.3 時間であった。

	該当数	平均	標準偏差	最大値	最小値
利用図書館数	475	2.3	0.82	3	1
訪問回数	434	8.7	13.9	160	0.1
利用時間（時間）	430	13.3	37.4	600	0.05

表 3-1 基本統計量

3-2 図書館の利用数、訪問回数

ここでの分析は、3館まで挙げてもらった図書館を区別せずに同じように扱うことにする。図 3-1 は分野別の利用数であるが、分野による傾向はあまりはっきりしたものは見られない。職位別も同様であった。図書館利用はキャンパスによる違いが大きいものと思われるので、図 3-2 でそれを示した。白金キャンパス以外はそれほど大きな違いはなかった。

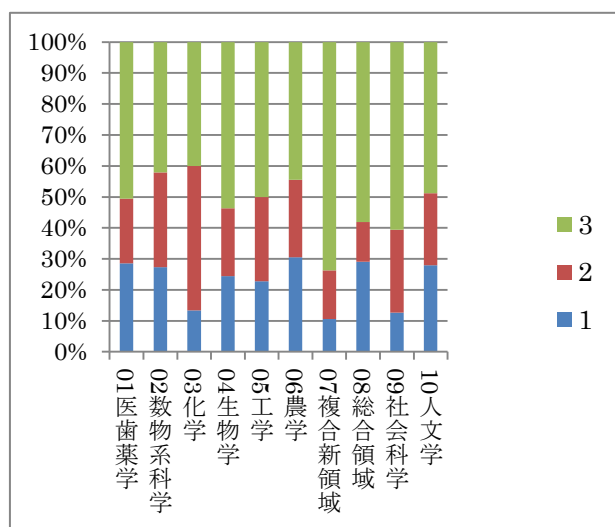


図 3-1 分野別の図書館利用数

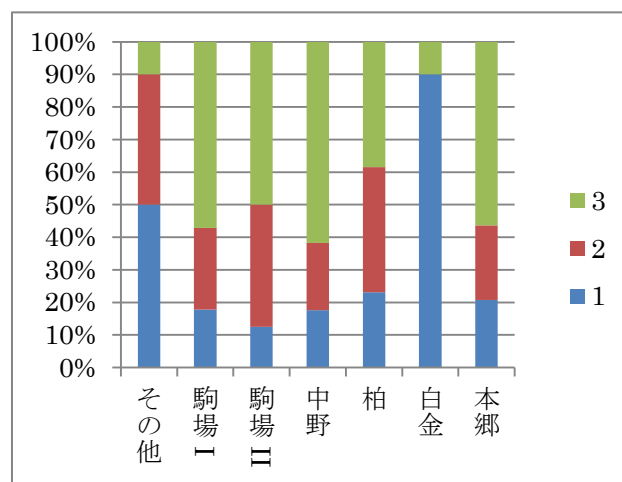


図 3-2 キャンパス別の図書館利用数

図 3-3 は部局別の月間図書館訪問回数を示したものである。すべての部局ではなく、一定数のサンプルが得られているところと、離れたキャンパスにある部局を取り上げてみた。それぞれの学問分野、職位別の分布、キャンパスの図書館の配置などの要因によって左右されているものと思われる。図書館利用が多いのは、人文社会系研究科、総合文化研究科、教育学研究科、数理科学研究科である。

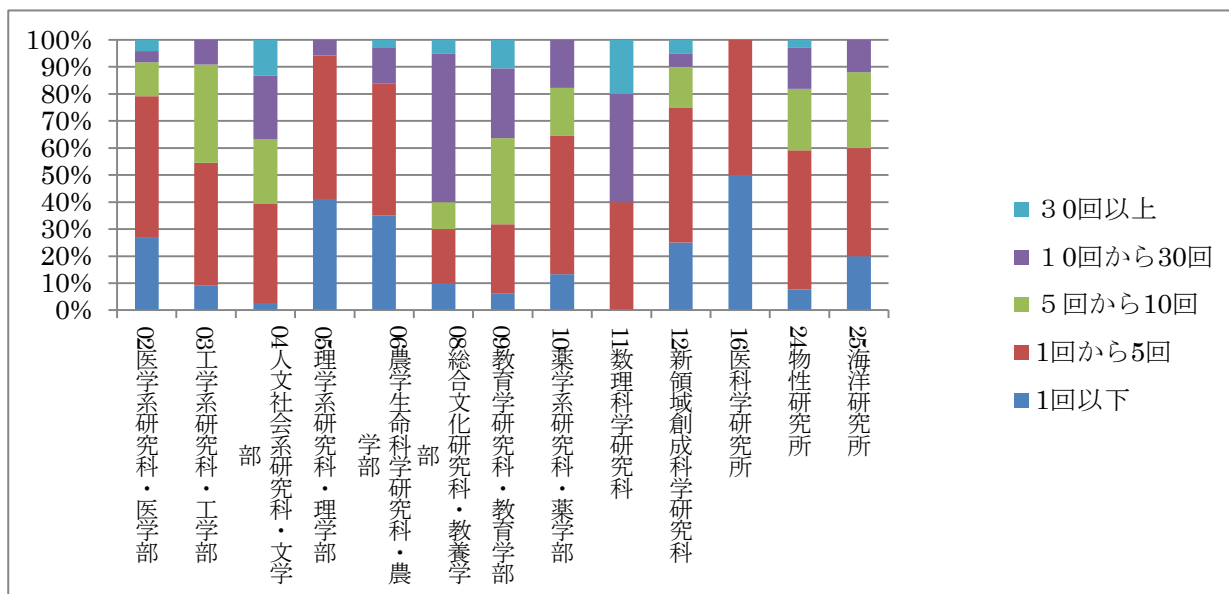


図 3-3 部局別の月間図書館訪問回数

これを図 3-4 の分野別の月間図書館訪問回数と比較してみると、分野別の方が違いははっきりしなくなる。これは、図書館の利用が、研究分野よりも、所属部局の位置や図書館・室設置の事情や学問分野なかの個別の事情が強く働いていることが推測できる。たとえば、数理科学研究科の回答者は数物系科学全般の回答者よりも図書館の利用回数が多いように見えるのは、数理科学が文献に依存する割合が高いことや図書室が整備されていることが関係しているのかもしれない。

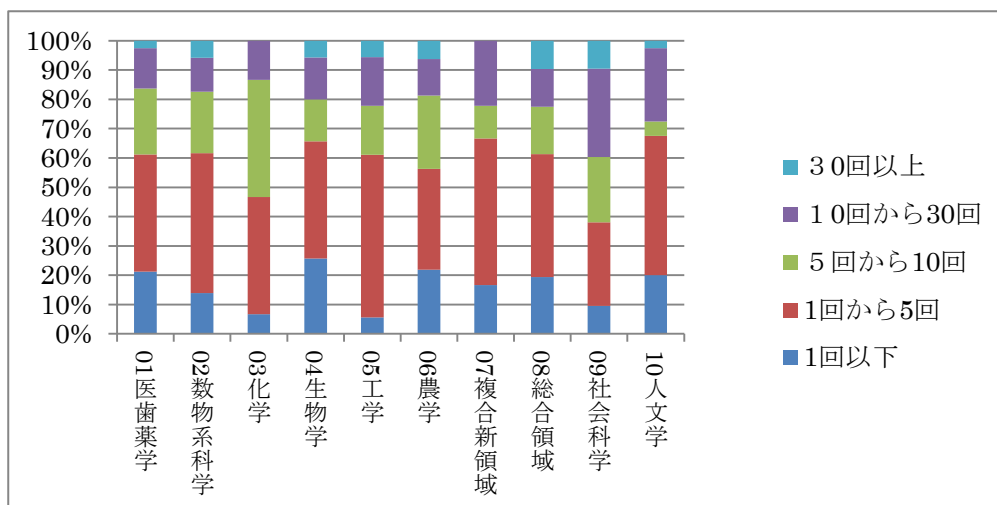


図 3-4 分野別の月間図書館訪問回数

3-3 利用図書館と利用者の所属部局

東京大学には、図書館・室が多数存在している。学内の構成員は、所属する部局の図書館・室だけでなくほかの図書館・室も利用することができるので、場合によって使い分けているものと考えられる。

回答者の所属部局と利用図書館・室を月単位の利用回数の合計値として見たのが、表 3-1 である。部局によって回答者の数はかなり偏っているので参考資料としてご覧いただきたい。全学図書館に位置づけられる総合図書館、駒場図書館、柏図書館はそれぞれのキャンパスからの利用者を多数集めていることが分かる。とくに、総合図書館はキャンパスを問わず広い範囲の利用者があることが分かる。

部局図書館・室の相互利用に関しては、

- (1) 当該部局がどのキャンパスにあるか
- (2) キャンパスのなかのどの位置にあるか
- (3) 研究分野間の関係
- (4) 図書館・室の施設・設備、開放の度合い、利用しやすさ

などの要因が複雑にからみあっていると考えられる。このあたりは、回答数の多い部局のデータを中心に引き続き分析を行っていききたい。

表 3-2 はそれぞれの図書館の利用目的である。いずれの図書館も「資料を探す・入手するため」に利用されており、見つけた資料は「借出する」「コピーをとる」が多くなっている。

最後に表 3-3 は座席利用についての意見を分析したものである。これについても、部局によって回答者に大きな偏りがあるので、参考までに見ていただきたい。おおむね座席は十分としている回答者が多いが一部の部局では不足しているという回答もある。

4章 資料の取り寄せ

この質問は学内外の図書館が所蔵する資料を直接訪問することなく、取り寄せるサービスについて聞いている。対象サービスは5つあり、Q15-1:e-DDS(学内資料の電子的配送)、Q15-2:資料のコピー(学内)、Q15-3:資料のコピー(他大学等)、Q15-4:資料の借出(学内)、Q15-5:資料の貸出(他大学等)の別にサービスの認知度および利用回数を尋ねた結果である。

4-1 サービスの認知

下図は回答者が属する分野毎に各サービスの認知(附属図書館がサービスを行っていることを知っているか、知らないか)を集計したグラフである。

e-DDSは全体の半数弱がサービスを認知している。分野による差は大きくはないが、医歯薬学では6割以上が認知している。

資料のコピー(学内)は分野に関わらず半数以上、7割から8割以上の方がサービスを認知している。各分野ともe-DDSに比べて10ポイントから30ポイント程度認知度が高い。中でも農学、総合領域の認知度が高く9割程度に達している。また、資料のコピー(他大学等)のサービス認知度は資料のコピー(学内)と同程度である。

資料の借出(学内)のサービス認知度は全体的には資料のコピー(学内)と同程度であり、医歯薬学、数物系科学が資料のコピー(学内)に比べて低く、化学は資料のコピー(学内)に比べて高い。一方、資料の借出(他大学等)のサービス認知度は資料のコピーに比べて低いが、社会科学、人文学では高い。

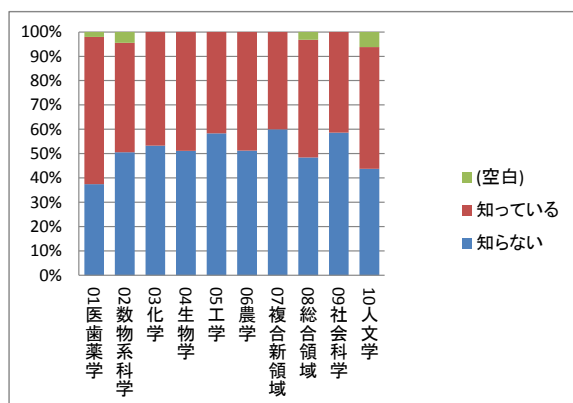


図 4-1 分野別サービス認知割合: e-DDS

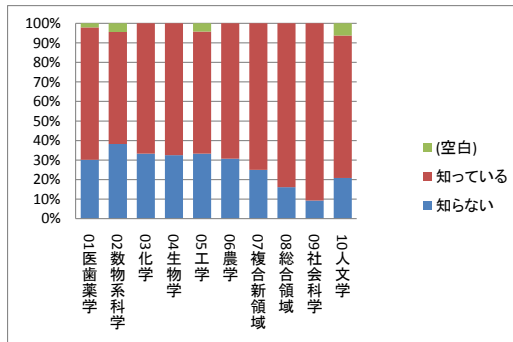
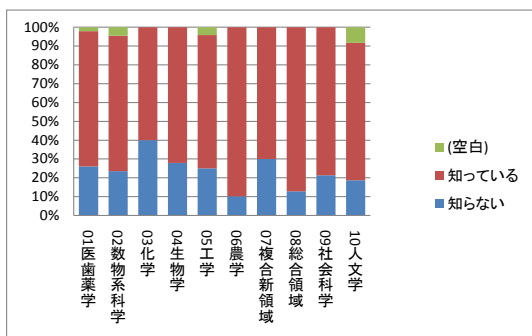


図 4-2 分野別サービス認知:資料のコピー(学内)

図 4-3 分野別サービス認知:資料のコピー(他大学等)

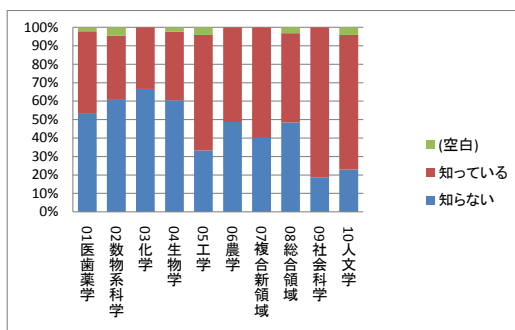
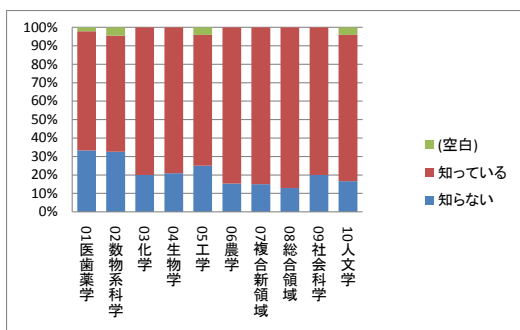


図 4-4 分野別サービス認知:資料の借出(学内)

図 4-5 分野別サービス認知:資料の借出(他大学等)

4-2 利用者の属性別にみる各サービスの年間利用回数

分野別に各サービスの平均年間利用回数を集計したのが下のグラフである。e-DDS は医学、化学、生物学で良く利用されている。理科系の分野では資料のコピーは学外より学内の方が多いが、社会科学・人文学では学外への依存度が高い。人文学では e-DDS やコピーサービスよりも資料の借出サービスが多く使われているのが特徴的である。

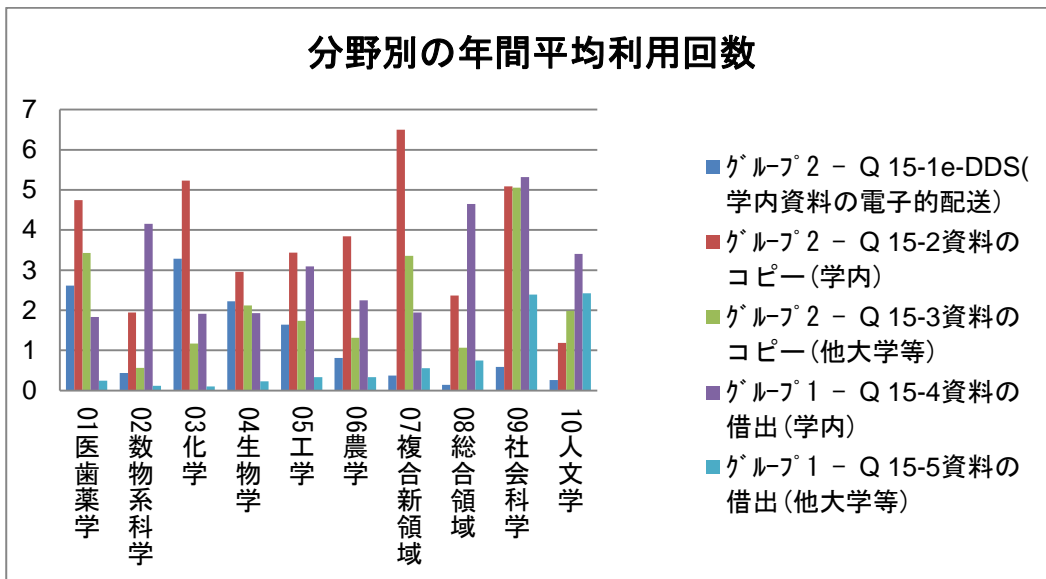


図 4-6 分野別のサービス年間平均利用回数

職位別にみると、他の職位に比べて教授および修士院生が学内の資料の借出サービスをよく利用し、准教授、講師、特任教員が e-DDS サービスをよく利用している。ただし、部局や分野によって回答した職位にかなり差があるため、この結果が一般的な職位の傾向を表しているかどうかは検討を要する。

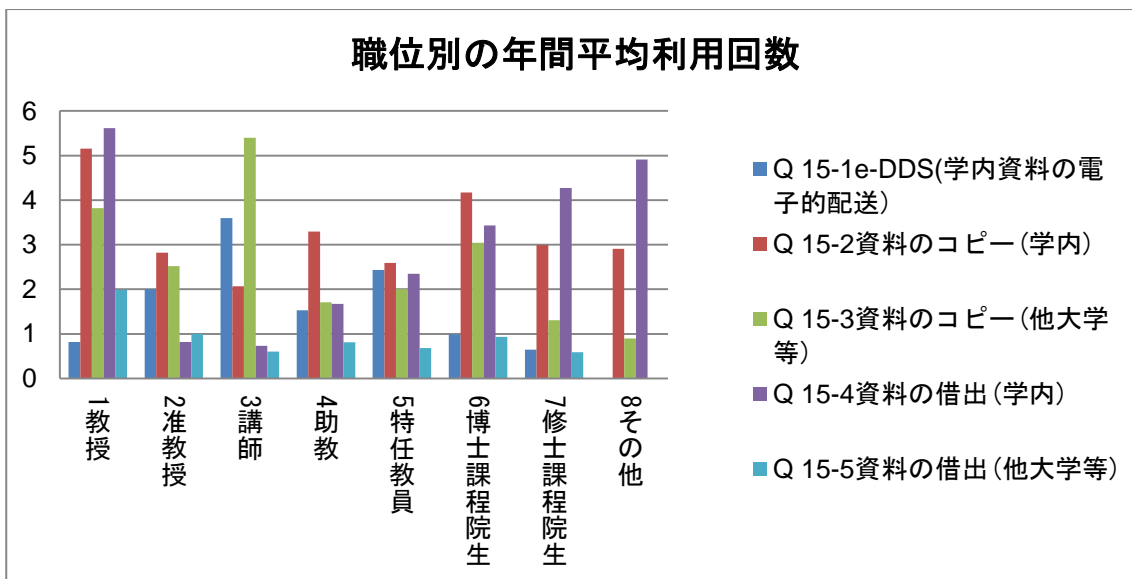


図 4-7 職位別サービス年間平均利用回数

次のグラフは回答者の所属キャンパス毎に各サービスの年間利用回数の平均を表したものである。メインキャンパスから離れた「その他」で資料のコピー(学内)が多くみられるのは当然として、駒場 I、柏、白金の各キャンパスでは資料の借出(学内)の利用が他のサービスと比べて多く使われており、他キャンパス所蔵の図書による情報の充足が図られている。

キャンパス別の年間平均利用回数

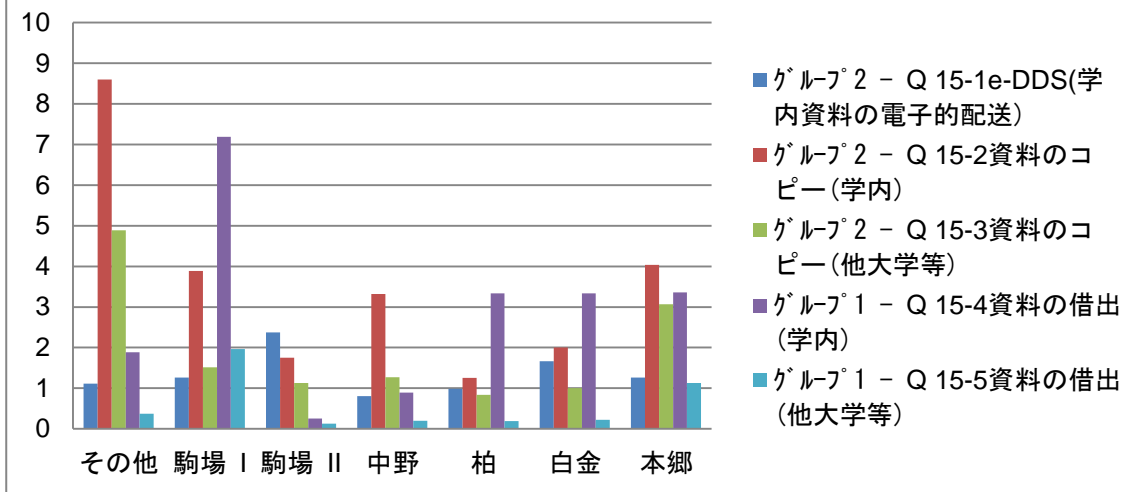


図 4-8 所属キャンパス別サービス年間平均利用回数

	未記入	01法学 政治学 研究科・法 学部	02医学 系研究 科・医 学部	03工 学系 研究 科・工 学部	04人 文社 会系 研究 科・文 学部	05理 学系 研究 科・理 学部	06農学 生命科 学研究 科・農 学部	07経済 学研究 科・経 済学部	08総合 文化研 究科・ 教養学 部	09教育 学研究 科・教 育学部	10薬学 系研 究科・ 薬学 部	11数理 科学研 究科	12新 領域 創成 科学 研究 科	13情 報学 環・学 際情 報学 府	14情 報理 工学 系研 究科	16医科 学研 究所	17地 震研 究所	19社会 科学研 究所	20生 産技 術研 究所	21史 料編 纂所	24物性 研究 所	25海 洋研 究所	26先 端科 学技 術研 究セ ンター	27研 究セ ンター (複 数)	総計	
01総合図書館	2	2	36	5	35	9	26	6	13	64	28		12	1	8		1	1	1	1	16	11		4	282	
02総合図書館国際資料室													1													1
03駒場図書館	1		1	4	9	3	2		21	19	1	3	1													65
04柏図書館			1	2	1	2				2			20									47	6	1		82
05法学部・法学政治学研究科 研究室図書室		2			1				1	2									1							7
06法学部・法学政治学研究外 国法令判例資料室		1																								1
07医学図書館			50				5			8	24				1								4	1		93
08工学・情報理工学図書館				11	3		9		1		1				10				3			1		1	1	41
09文学部・人文社会系研究科 3号館図書室本郷			1		33			1	3	5										1						44
10理学部・理学系研究科			1			17	4				7		3				2					7	7	1		49
11農学部・農学生命科学研究 科			10			2	38	1			7		5										6	5		74
12経済学部図書館		1	1		3		2	6	2	8									2				1	1		27
13総合文化研究科自然科学 図書室									3			1														4
14総合文化研究科附属アメリ カ太平洋地域研究センター									3																	3
15教育学研究科・教育学部図 書室	1		3		4		1			68	1			1												80
16薬学図書館			3								45															48
17数理科学研究科図書室				1					2	2		6					1									12
18情報学環・学際情報学府図 書室					1					1																2
19医科学研究所図書室			2			1				1			2			7										13
20地震研究所図書室																	3						1			4
21東洋文化研究所図書室					5																					5
22社会科学研究所図書室								3		7									2							12
23生産技術研究所図書室																			2					1		3
24史料編纂所図書室					2																1					3
25宇宙線研究所図書室													4									1				5
26物性研究所図書室													2									66				68
27海洋研究所図書室						4							4										26			34
28先端科学技術研究センター 図書室				3																				1		4
29その他 (空白)			1		6			1	7	3																18
総計	54	6	171	36	117	57	129	18	66	228	156	18	69	3	24	24	9	6	9	3	201	81	6	18	1509	

表3-1 (参考) 図書館・室の相互利用(人単位)

	テレビ・ビデオなどの視聴のため	パソコンやネットワークを利用するため	閲覧室等を利用するため	資料を探す・入手するため(見つけた資料はコピーする)	資料を探す・入手するため(見つけた資料は館内で読む)	資料を探す・入手するため(見つけた資料は借出する)	新聞・雑誌等を読むため(主に最新情報の確認)	特定の目的はなく、時間つぶしや待ち合わせなどのため	空白	回答数計
01総合図書館	0%	1%	13%	19%	7%	49%	2%	2%	6%	282
02総合図書館国際資料室	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	1
03駒場図書館	0%	0%	11%	14%	12%	52%	2%	3%	5%	65
04柏園図書館	2%	1%	2%	15%	11%	60%	0%	2%	2%	82
05法学部・法学政治学研究 科研究室図書室	0%	0%	0%	43%	0%	43%	0%	0%	14%	7
06法学部・法学政治学研究 外国法令判例資料室	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	1
07医学図書館	0%	5%	0%	52%	6%	25%	2%	0%	5%	93
08工学・情報理工学図書館	0%	2%	5%	27%	10%	51%	2%	0%	2%	41
09文学部・人文社会系研究 科3号館図書室本郷	0%	0%	2%	39%	2%	57%	0%	0%	0%	44
10理学部・理学系研究科	0%	0%	4%	43%	14%	27%	6%	4%	2%	49
11農学部・農学生命科学研 究科	0%	1%	1%	51%	4%	34%	3%	1%	3%	74
12経済学部図書館	0%	0%	0%	19%	0%	70%	7%	0%	0%	27
13総合文化研究科自然科 学図書室	0%	0%	0%	25%	25%	0%	25%	0%	0%	4
14総合文化研究科附属ア メリカ太平洋地域研究セン ター	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	3
15教育学研究科・教育学部 図書室	0%	0%	1%	30%	4%	59%	1%	0%	4%	80
16薬学図書館	0%	2%	8%	58%	10%	17%	2%	0%	2%	48
17数理科学研究科図書室	0%	0%	0%	17%	8%	75%	0%	0%	0%	12
18情報学環・学際情報学府 図書室	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	2
19医科学研究所図書室	0%	0%	0%	54%	23%	8%	0%	8%	0%	13
20地震研究所図書室	0%	0%	0%	25%	0%	50%	0%	0%	25%	4
21東洋文化研究所図書室	0%	0%	0%	60%	0%	40%	0%	0%	0%	5
22社会科学研究所図書室	0%	0%	0%	17%	0%	75%	0%	0%	8%	12
23生産技術研究所図書室	0%	0%	0%	33%	33%	33%	0%	0%	0%	3
24史料編纂所図書室	0%	0%	0%	67%	0%	33%	0%	0%	0%	3
25宇宙線研究所図書室	0%	0%	0%	20%	0%	40%	0%	0%	40%	5
26物性研究所図書室	0%	0%	3%	28%	10%	54%	3%	0%	1%	68
27海洋研究所図書室	0%	0%	0%	56%	6%	38%	0%	0%	0%	34
28先端科学技術研究セン ター図書室	0%	0%	0%	25%	25%	50%	0%	0%	0%	4
29その他	0%	0%	0%	50%	0%	39%	0%	0%	6%	18
(空白)	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	99%	425
総計	0%	1%	4%	23%	6%	33%	2%	1%	31%	1509

表3-2 (参考)利用目的(第一の目的に挙げたもの)

	座席数			総計
	十分である (座席を探す のに困らな い)	不足して いる	(空白)	
01総合図書館	199	43	40	282
02総合図書館国際資料室	1			1
03駒場図書館	45	12	8	65
04柏図書館	75	1	6	82
05法学部・法学政治学研究科研究室 図書室	1	2	4	7
06法学部・法学政治学研究外国法令 判例資料室	1			1
07医学図書館	71	9	13	93
08工学・情報理工学図書館	34	5	2	41
09文学部・人文社会系研究科3号館 図書室本郷	35	6	3	44
10理学部・理学系研究科	39	4	6	49
11農学部・農学生命科学研究科	56	10	8	74
12経済学部図書館	19	4	4	27
13総合文化研究科自然科学図書室	3		1	4
14総合文化研究科附属アメリカ太平 洋地域研究センター	3			3
15教育学研究科・教育学部図書室	54	17	9	80
16薬学図書館	37	8	3	48
17数理科学研究科図書室	11		1	12
18情報学環・学際情報学府図書室	2			2
19医科学研究所図書室	10	1	2	13
20地震研究所図書室	4			4
21東洋文化研究所図書室	5			5
22社会科学研究所図書室	9	1	2	12
23生産技術研究所図書室	3			3
24史料編纂所図書室	2	1		3
25宇宙線研究所図書室	2		3	5
26物性研究所図書室	64	2	2	68
27海洋研究所図書室	26	5	3	34
28先端科学技術研究センター図書室	4			4
29その他	12	2	4	18
(空白)			425	425
総計	827	133	549	1509

表3-3 (参考)座席についての意見